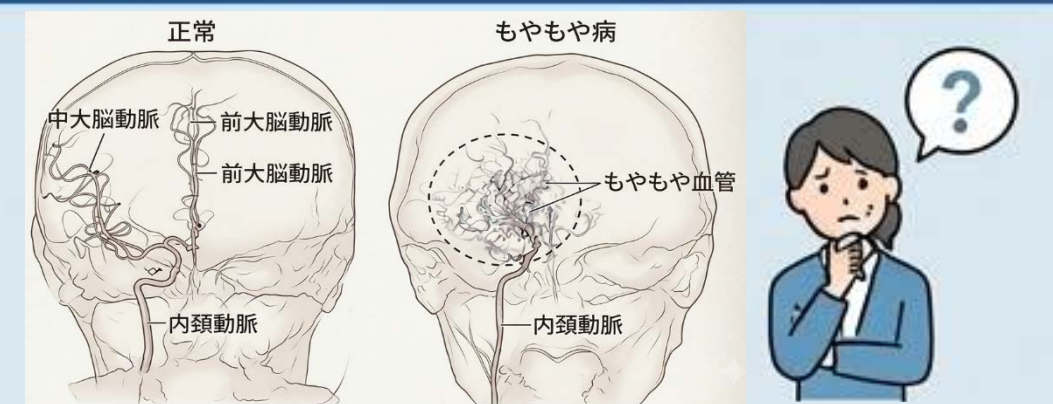


群馬県内小中学校における「もやもや病」への理解促進と学校生活支援事業

群馬大学医学部附属病院 脳神経外科による、教育現場の不安解消と安心・安全な学校生活のための地域貢献プロジェクト

【1】背景・課題：学校生活に潜むリスクと現場の不安



小児もやもや病の特性

- ・日本人に多い指定難病。
- ・脳の主幹動脈が狭窄し、不足した血流を補うため異常な血管網(もやもや血管)が形成される。
- ・小児期の発症が多く、学校生活における配慮が不可欠。

⚠ 学校生活への影響とリスク

- 【体育】激しい運動や長距離走による過呼吸
- 【音楽】リコーダーやピアノ等管楽器の演奏
- 【その他】熱い給食をフーフーと吹く動作、大泣きなど

*** これらの動作が「虚血発作(手足の脱力、しびれ等)」を誘発する恐れがある**

教育現場の課題

「どのように指導・配慮すればよいかわからない」という教職員の大きな負担と不安

【2】事業内容：専門医によるオンライン講習会



講演会の4つの柱

早期発見 初期症状(一過性脱力など)の見逃しを防ぐポイント	学習指導 虚血発作を誘発しやすい科目(体育・音楽)での具体的配慮
術後ケア 手術後の学校生活における注意点とサポート	合併症対応 高次機能障害やてんかんを伴う場合の適切な配慮

【3】期待される効果：安心・安全な教育現場の実現



- 教育現場の不安解消**
正しい医学的理解により、教職員の過度な不安や負担を取り除き、自信を持った対応を実現。
- 適切な支援体制の構築**
学校全体で疾患の理解を深め、患児一人ひとりの症状に合わせた安全な学習環境を整備。
- 大学の知見による地域貢献**
群馬大学の高度な専門知識を教育現場へ直接還元。医療と教育の連携で子供たちの未来を守る。